石垣たまご理論について

その発想と展開（上）

「現代医学」がおちいっている迷路からどうぬけ出すか
「現代医学」のすばらしさをどう生かすか

今後のあるべき医療

健康体を活かす医療

たまご理論で病気のしくみを考える

たまごビル院長　石垣　邦彦
〒581-0061　大阪府八尾市春日町 1-4-4
電話 072（991）3398　FAX 072（991）4498
ホームページアドレス http://www.tamagobl.com/

人間は「生きも」のです

だから他の生きものと同じく、「生まれ・生きぬき・死にゆく」という「いのち」をつなぐ大切な役割があります。その役割は私たち人類一人ひとりに、あなたがた一人ひとりに、すでにシステムとして「からだ」に備わっているのです。その意味では、人間は春に芽生え秋に枯れゆく一年草の草花と同じことです。

そして「いのち」をつなぐこと自体が、一年草の草花と同じく、あなたが自覚しようとしまいと、生きものである人間が「生きる」目的となっています。一人ひとりの人間は、すべての生きものと同じく、ヒトという「種」の「いのち」をつなぐ一つひとつの鎖の環（わ）という部分であり、その鎖の環の部分である私たちが、大きな「いのち」のつながりに通じているのです。そこに私たちは大きな安心とやすらぎを得られるのです。（図1）

どんなに科学・医学が発達してもその「からだ」に備わっているシステム自体を、人間が変えられるものではありません。その「いのち」をつなぐシステムをどう生かすかの課題が、現在の日本人のみならず人類に問われているのです。具体的には、一人ひとりがどう生きるか、どう死ぬかです。

しかし、ここで忘れてはならないことがあります。それは、他の生きものと同じく人間は、「充分に食べられ、外敵によって命をあやうくされることもなく、寒さにふるえることもない」というような豊かな「最高条件」で生活すると、かえって「生き生きと」生きぬくことはできないという事実です。

逆にそれらの生きぬく条件が、「あまり充分に満たされないで、生活のあらゆる面で我慢を強いられるとき」、生きものである人間は、そこから活路を見出し、その状態を「最適条件」として生き生きと生きられる存在であるのです。

動物も、植物も、すべての生きものがその能力を発揮できるのは、「根・腸を丈夫にし」、死を意識するぐらいに少し「飢える」ことです。生きものである人間にも全く同じことがいえます。（注1）

そして、生きものである人間は「死にゆく」ことによって、最終的に次の世代に「いのち」をつなぐことになります。

以上の観点から、私たち人間は、哲学・宗教・文学・教育・政治・経済・法律・社会体制というもの、特に科学・医学がどうあるべきかを考えてゆく必要があります。

それには、まず地球上で40億年にわたって培われ、「生まれ・生きぬき・死にゆく」という「からだ」にすでに備わっている「しくみ」を生かすことです。その根底にある「からだ」の「しくみ」がうまく「はたらく」ようにすることが一番基本的なことです。

私は、石垣たまご理論で、まずこの「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらいている」状態を「健康体」と定義します。その「健康体」が「からだ」にあらわれる時にはある特徴がみられます。それを「健康体の特徴」とします。その特徴の一つに「上腹部の柔軟性」があります。（表1）

「健康体の特徴」である「上腹部の柔軟性」が変性・悪化し、各種の慢性疾患にいたる関係があります。（図2）

そのため私は、「上腹部の柔軟性」を絶えず保持できるようにすることが、人間が生きてゆく上での柱であり、慢性疾患予防の要であり、医療の中心となることをこの石垣たまご理論で提案します。

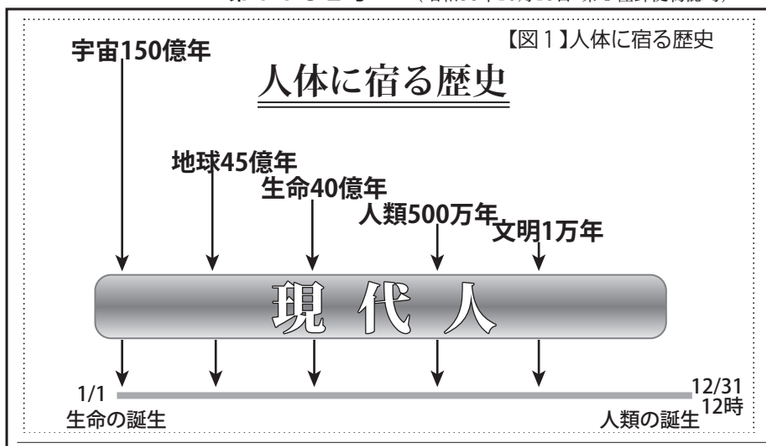
なぜなら、「上腹部の柔軟性」がある時、「呼吸・循環・人体力学・自律神経・内臓の動き」などがととのい、「からだ」全体の「はたらき」が高まるからです。

この考えを、現代医学・東洋医学・その他代替医療を業とする医療関係者のみならず、一般の国民も理解し共有することを提案します。

そのことで初めて、医療を統合し、人生をそれぞれに実りあるものとし、社会を活性化することになります。

私の最終的な理念である「人は楽しむために生まれてきた」を実現する一つの手だてとなります。

【図1】人体に宿る歴史



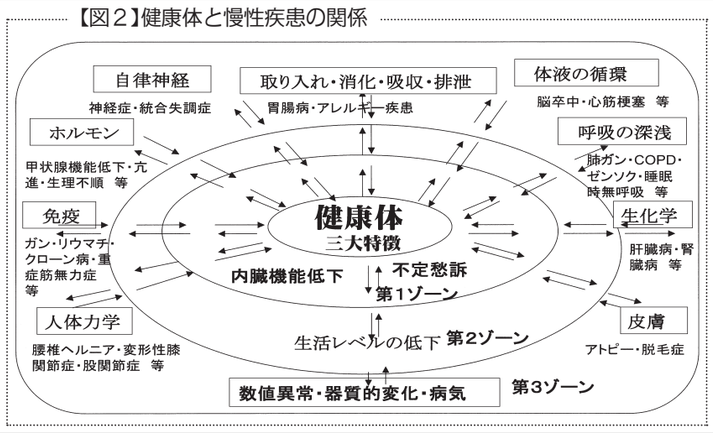
【表1】健康体の三大特徴

(1)「上腹部の柔軟性」＝腹部の柔軟性と形態と温度分布
「健康体」の場合、立位で上腹部が下腹部より少し低く手で上腹部を圧迫しても圧痛は無く、しこりもなく、その圧迫をとくとすぐに元に復する柔軟性があり適度な緊張がある。　また、腹部全体は温かくほぼ同一温度である。

(2)頭部と足先の温度差
「健康体」の場合、頭部が足先より約１度から３度高い範囲である。

(3)立位での姿勢
「健康体」の場合、正面からみると脊柱は正中線上でまっすぐであり、側面からみると生理的に適切なＳ字状の 湾曲を保ち、人体の各部位に余分な緊張と力の過剰な 負担がない

【図２】健康体と慢性疾患の関係



Ⅰ「からだ」の「しくみ」

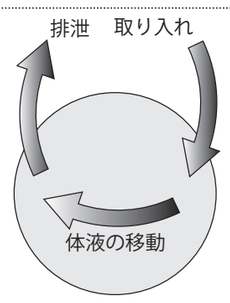
「からだ」の「しくみ」の究極の目的は、「いのち」をつなぐところにあります。その「しくみ」は、人間的レベルでは現象として「生まれ・生きぬき・死にゆく」ことです。

「いのち」をつなぐために、原始の生命から現在にいたるまでの、われわれ人類を含む「からだ」の「しくみ」のもっとも大事な特徴は、「いのち」は膜をもって周囲の世界とは、独立した空間を維持していることです。その上で、膜を通じて外から取り入れ、消化し、必要なものを吸収し、不要なものを排泄することにあります（図3）

「取り入れ・消化・吸収・排泄」を「入り出」とあらわすことにします。「入り出」の原動力は、体液の移動にあります。血液は体液の一部です。

「入り出」は「からだ」の内部環境を保持し、「いのち」をつなぐためにあります。

【図3】体液の移動による「取り入れ・排泄」



Ⅱ「からだ」の「はたらき」と「つくり」と「かたち」

現在の人間の体験では、とうてい考えられないぐらい大変な変動が地球環境に多々起りました。それらの多くの変動に対応して、「からだ」は「いのち」をつなぐために主に「入り出」の「はたらき」をさまざまに変化させてきました。そのため、原始の生命から「からだ」の「はたらき」も「つくり」も「かたち」も大きく変わってきました（図4・表2）

その「入り出」の「はたらき」と「つくり」と「かたち」の時間的積み重ねの変化を主に「進化」といいます。その長い歴史の進化の結果が、例外なく現在のわれわれ一人ひとりに備わっている「からだ」の「はたらき」と「つくり」と「かたち」です。いわゆる現代医学でいう人体の「正常機能・構造・形態」です。

すべての生物体の「正常機能・構造・形態」は生物の種によって異なります。つまり、牛の、雀の、稲の、大根のもつそれぞれの「正常機能・構造・形態」です。

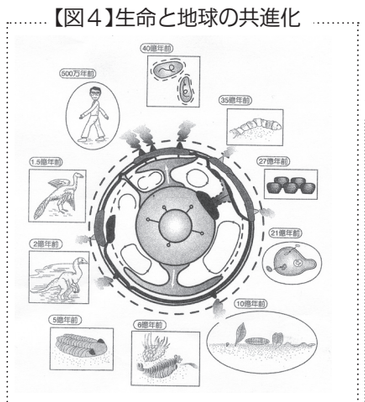
人体の「正常機能・構造・形態」に含まれるものが、人体の特徴である言語をあやつり、手を使う能力であり、大脳皮質の発達であり、二足歩行を行う運動の姿勢などです。

その「正常機能・構造・形態」は、現代医学的には、消化器系・循環器系・呼吸器系・自律神経系・泌尿器系などという解剖学・生理学などの分類された表現となるのです。

しかし、進化の過程を大きくながめると、人体の「正常機能・構造・形態」は、主に「入り出」をスムーズにおこなうために進化してできた結果です。

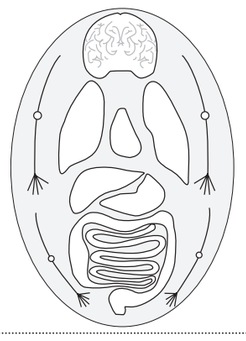
つまり、主に「入り出」という「いのち」をつなぐ「はたらき」が円滑に動くように進化してきた結果が、今ある人体の「正常機能・構造・形態」です。（図5）そのため、人体の「正常機能・構造・形態」は「入り出」の「はたらき」をするためにあるともいえます。

【図4】生命と地球の共進化



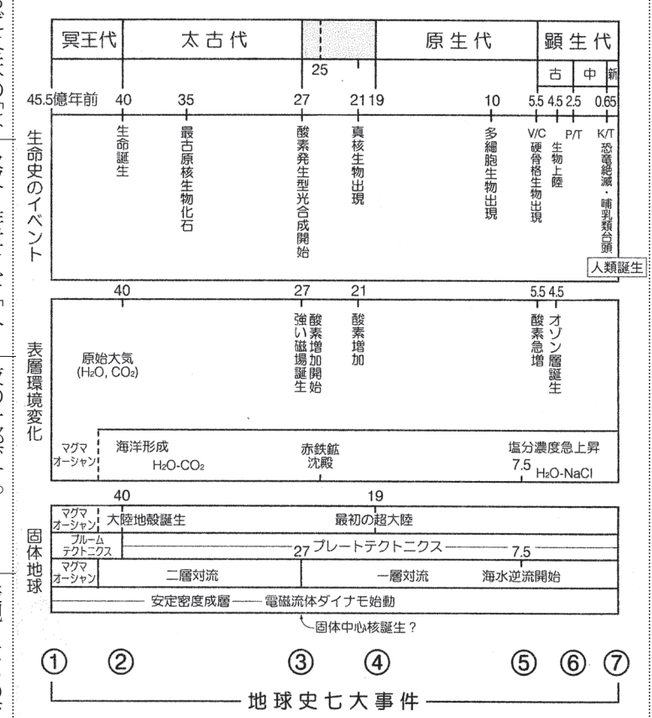
生命と地球はともに影響し合いながら進化してきた

【図5】人体は体液の中に器官が漂うふくろ状の「生きもの」



注1　『自然の「しくみ」を生かした予防にまさる治療なし』21年1月1日号
『慢性疾患予防の要は腸の「しくみ」を生かすこと』　同年2月15日号　いずれも河内新聞参照

【表2】地球史年表



議会を傍聴しませんか！

市政を身近に知るためにも、本会議、委員会を傍聴してみませんか。

本会議は、開催当日、総合庁舎21階の傍聴受付までお越しいただき、住所、氏名をご記入いただくだけで傍聴できます。なお座席数は、固定席86席、車いす席６席で、定員を超えた場合は抽選となりますので、ご了承ください。

委員会は、19階の議会事務局にお越しいただき、同様の手続きで傍聴できますが、１委員会７席となっていますので、ご注意ください。

なお本会議、委員会の開催日程等、詳細につきましては、議会事務局電話06（4309）3294までお問い合わせください。

東大阪市議会

贈らない！求めない！受け取らない！

政治家（立候補予定者・現職）が、選挙区内の人に、お金や物を贈ることは、法律で禁止されています。
また、有権者が政治家にこれらの寄附を求めることも禁止されています。

結婚祝　出産祝　入学祝
葬式の香典・榊・供花
お祭りへの寄附・差入れ
町内会の旅行、地域の催し物への寸志・差入れ

東大阪市選挙管理委員会

一般財団法人 石垣ＲＯＢ療法研究所
設立のお知らせ

謹啓　新春の候　ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「安心総合医療　たまごビル」では　たまご理論による慢性疾患の治療と予防のための　ＲＯＢ療法の共同研究を　名古屋大学との間で進めてまいりました

この度　ＲＯＢ治療のさらなる研究を進め　より一層科学的な検証を行うとともに　広く国民にＲＯＢ治療の普及・推進を図り　もって社会に貢献することを目的として「一般財団法人　石垣ＲＯＢ療法研究所」をここに開設する運びとなりました　これもひとえに皆様方のご理解ご協力の賜物と心より感謝いたしております

記

一、日時　平成二十五年二月二十四日（日曜日）
　　午前十時～午後一時

記念講演　講演者　渥美和彦　東京大学名誉教授　日本統合医療学会名誉理事長

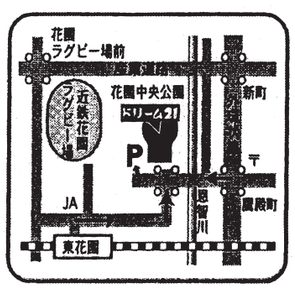
一、場所　たまごビル
　　大阪府八尾市春日町一丁目四番四号
　　TEL　〇七二―九九一―三三九八

一般財団法人　石垣ＲＯＢ療法研究所
　　設立発起人代表　渥美和彦
　　設立発起人　関西医科大学附属枚方病院院長　今村洋二
　　設立発起人　松下政経塾元塾長　関淳
　　理事長　石垣邦彦

※ご出席は案内状を差し上げた方に限らせていただきます。

科学・文化・スポーツの子どもひろば
ドリーム21
東大阪市立児童文化スポーツセンター

〒578-0923
東大阪市松原南２丁目７－21
（近鉄奈良線「東花園駅」下車北東徒歩10分）
ＴＥＬ　072-962-0211
ＦＡＸ　072-962-0810
・管理　（公益財団法人）東大阪市文化振興協会

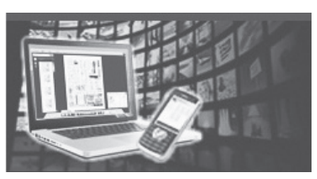


河内新聞の電子新聞申し込み
ニュースメディアスタンドTOPページ
http://newsmediastand.com
＜お問い合わせ先＞
株式会社 廣済堂（熊沢）☎03-3453-7417

特定土木建築業　総合建設業
水道工事業　八尾市水道局指定・柏原市水道局指定　排水設備工事業　八尾市排水設備指定・柏原市排水設備指定
㈱ 畑中商事　代表取締役　畑中信浩
本社　八尾市恩智中町１丁目165　ＴＥＬ 072（943）6636・ＦＡＸ（941）9101
柏原本店　柏原市太平寺１丁目９番６号　ＴＥＬ 072（971）5711

デジタル新聞を読むためのポータルサイト
News Media Standは、デジタル化された新聞を読むためのポータルサイトです。
PCやスマートフォンから、いつでも、どこでも新聞を読むことができます。
News Media Standが提供するデジタル新聞は、次世代の新聞です。

デジタルで読む新聞―ニュースメディアスタンドがお届けします
ニュースメディアスタンド News Media Stand
分類一覧 → 地方紙 → 河内新聞



消費者相談
八尾市立くらし学習館
消費生活に関する様々な相談を電話または来所にて受付けております。
お気軽に、お電話下さい。
八尾市消費問題研究会
〈相談時間〉平日10時～３時
TEL 072-922-6185
（FAX 072-993-2772）
〒581-0003　八尾市本町３－10－10（八尾市立くらし学習館内）
くらしの相談全般
・消費者相談
　こども消費者相談
・子育て・女性の悩み相談
・良い医者さがし110番
・医療相談
・ボランティア相談　等